

令和7年度 京都市学校教育の重点

＜京都市の目指す子ども像＞

「伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を創造する子ども」

- ◆広い視野と豊かな感性をもち、よりよい人生や社会を創造できる
- ◆様々な学びを生かし、社会的・職業的自立を果たすことができる
- ◆多様な他者と共に生き、学び合い、人権文化の担い手となることができる

＜全教職員で進める学校園づくり5つの柱＞

「いのち」子どもの命を守り切る

「よりそい」多様な子どもを誰一人取り残さない教育を進める

「つとめ」教職員の職責を自覚し、研鑽することで、教育の質を高める

「ひろがり」カリキュラム・マネジメントの視点をもって、
社会に開かれた教育課程を実現する

「つながり」校種間連携・接続により子どもを支える

＜令和7年度 重視する視点＞ ～「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」～

- 主体的・対話的で深い学びを重視した授業を通して、学びの質を高める
- 日々の授業と家庭学習との連動を通して、自学自習の習慣化を図る
- 自他を大切にし、「公共の精神」に基づく態度を育む

令和 7 年度 稲荷教育

本校が目指す教育

～子ども理解に基づき、子どもが安心して考え、行動できる教育環境づくり～

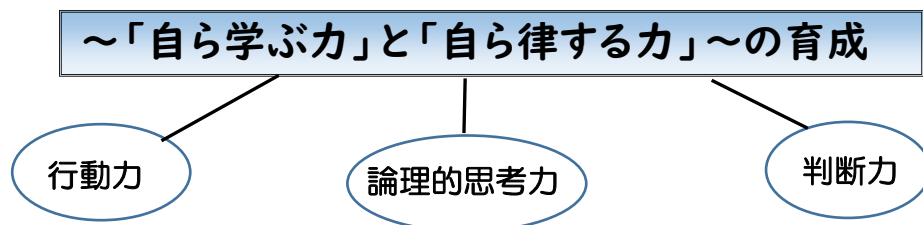
I 学校教育目標

いきいき なかよく りそうに向かって 考動する子

II めざす子ども像

- ① 「いきいき」 ○いきいき主体的に学習できる子
- ② 「なかよく」 ○友だちと仲良く、命ときまりを守りきる子
- ③ 「りそうに向かって」 ○目標に向かって、心や体を鍛える子
- 「いなり」 ○学校・地域を愛する子
- ◎「考動する」…「考えて行動する」(思考力・判断力・行動力)

III 子どもたちに育てたい力



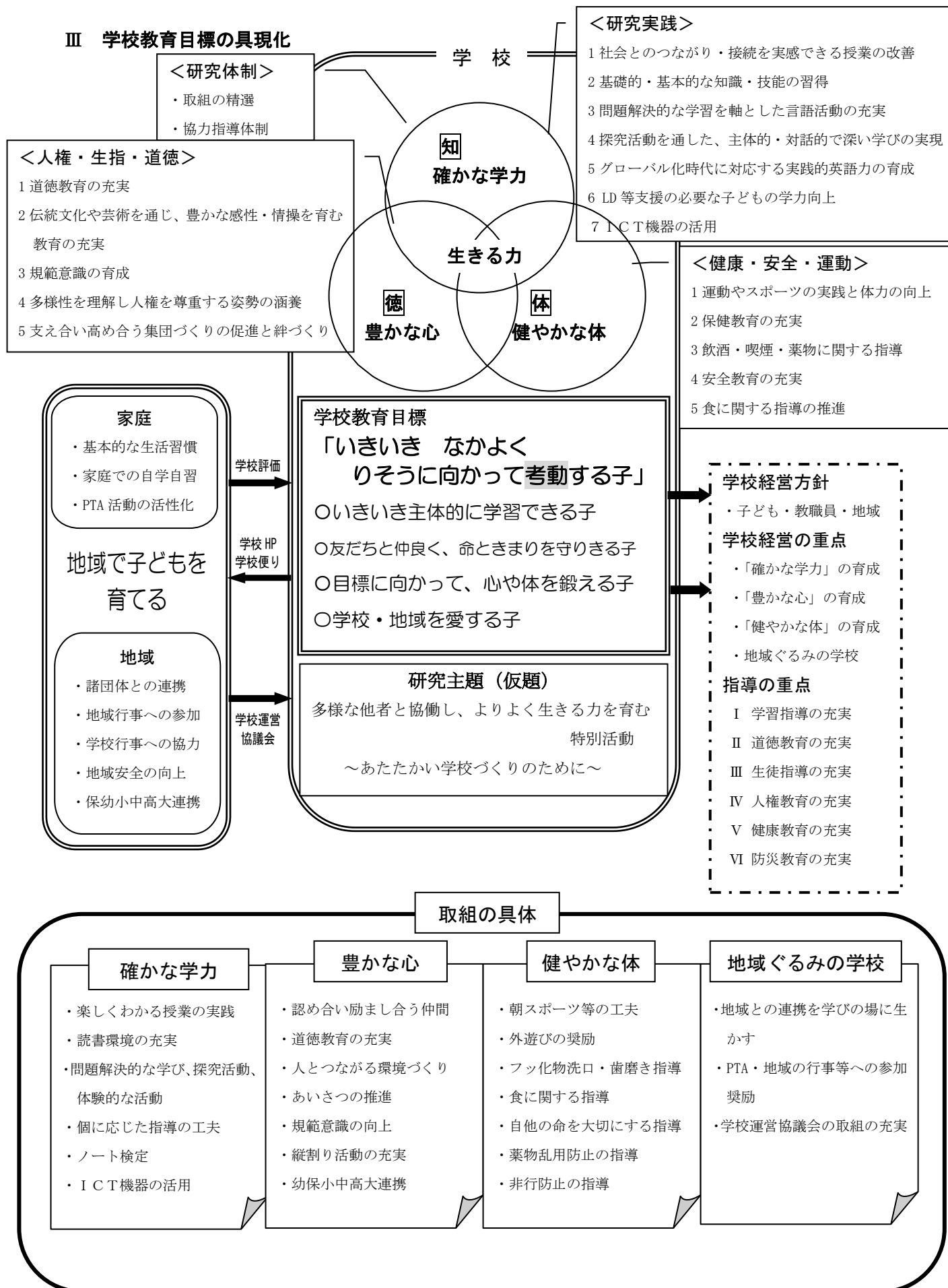
IV 大切にする視点

～子どもの人権を守れているかを一番の物差しにして～

- 主体的・対話的で深い学びを通して、子どもの学びの質を高める。
- 自他を大切にし、「公共の精神」に基づく態度を育む。
- 日々の授業と家庭学習との連携を通して、自学自習の習慣化を図る。
- 健康に関心を持ち、進んで運動を楽しむ姿を目指す。

子どもが、安心して考動できる学校

Ⅲ 学校教育目標の具現化



IV 学校教育の基本指針 人間の本能(「生きたい」「知りたい」「仲間になりたい」)を守る。

1【知】「確かな学力」の育成

子どもの「学ぼうとする意欲」を大切にしたい、個別最適で深い学びを目指す。

- (1) 社会とのつながり・接続を実感できる授業の改善(目的意識・課題意識・将来展望等)
- (2) 問題解決的な学習の工夫と言語活動の充実
- (3) 探究活動を通じた主体的・対話的で深い学びの実現
- (4) GIGA端末の活用に向け、児童に応じた日常的な活用(慣れ)の推進

2【徳】「豊かな心」の育成

子どもひとりひとりの、発達段階に応じた道徳性の涵養を図る。

- (1) 道徳教育の推進
- (2) 経験に基づく判断力の涵養
- (3) 支え合い高め合う集団づくりの推進と絆づくり
- (4) 伝統文化や芸術を通じ、豊かな感性・情操を育む教育の充実

3【体】「健やかな体」の育成

子どもが自分の体への関心を高め、自他の心と体を大切にしようとする保健教育を目指す。

- (1) 運動や遊びに親しむ機会の工夫
- (2) 運動の特性と子どもの実態を踏まえた、体育科の授業の充実
- (3) 子どもの理解力に応じた安全教育の充実
- (4) 栄養教諭との連携を図った、食に関する指導の推進

4【地域】「地域ぐるみの学校」

開かれた学校づくりと地域ぐるみの教育の核となる学校を創る。

- (1) 学校運営協議会を核とした地域ぐるみの教育を推進
- (2) 地域の子どもとして、郷土を再発見できる授業の実践

V 魅力ある開かれた学校を創る

すべての子どもたちに自信と笑顔が見られ、保護者・地域の方に信頼される「オンリーワン」の魅力ある開かれた学校を創る。

1 子どもが魅力を感じる学校

- ・すべての子どもが個として、生き生きと輝く学校
- ・日々子どもが「学校が楽しい」と思える学校
- ・すべての教育活動の中で、一人ひとりの子どもが大切にされていると感じられる学校
- ・自分達の学校を誇りに思い、所属感を満たす学校

2 保護者・地域が魅力を感じる学校

- ・「子どもの姿」「子どもへの対応」を媒体として、満足できる学校
- ・安心感、信頼感のもてる学校
- ・教育活動に魅力を感じる学校
- ・家庭・地域との連携のもと、お互いが有機的に機能し、共に高め合う学校

3 教職員が魅力を感じる学校

- ・全教職員が子どもと共に生き生きと活動し、創造的で特色ある学校
- ・学校・保護者・地域がスクラムを組み、教育に熱中できる学校
- ・お互いを尊重し合うチームの中で、個々の仕事に「やりがい」を感じられる学校
- ・個々の特性・専門性が活かされる学校

VI 具体的な取組(例)

1 「確かな学力」

子どもの「学ぼうとする意欲」を大切にした、個別最適で深い学びを目指す。

- 普通授業の充実(子ども主体の問題解決的な学習を子どもが理解できる言葉で)
 - *めあてと振り返りを位置付けた授業
 - *思考・判断・表現する力の育成を図る主体的・対話的で深い学びの工夫
 - *協力指導体制の活用
 - *GIGA端末を活用した学びの工夫と実践
- 読書環境の充実
- ノート検定を軸とした、学習の足あとを大切にする姿勢の醸成

2 「豊かな心」

子どもひとりひとりの、発達段階に応じた道徳性の涵養を図る。

- 3つの「あ」「あいさつ・あんぜん・あとしまつ」の徹底 児童会を中心に
- 言葉遣いの指導。子どもの 悪い言葉遣いはその場で正す。

○学校・社会のきまりを守る態度の育成(ルール・マナー・モラル・エチケット)

○児童会を核とした仲間づくり

いじめを許さない、寛容で強い心の育成

年度当初にたてわり班を組み、様々な機会に取り組む。

○保幼小中高大との連携

稲荷こども園・稲荷砂川保育園・深草幼稚園、深草小学校、深草中学校

京都工学院高校、京都奏和高校、龍谷大学

3 「健やかな体」

子どもが自分の体への関心を高め、自他の心と体を大切にしようとする保健教育を目指す。

○体育科の授業の工夫

○朝スポーツの工夫

○「食」に関する指導

○保健指導

4 「地域ぐるみの学校」

開かれた学校づくりと地域ぐるみの教育の核となる学校を創る。

○生活科、社会科、生活単元学習、総合的な学習等での、地域の人的・物的資源の活用と発信

○学校運営協議会との連携